

令和 3 年度までの実績と計画の乖離（水道事業）

【収益的収支】

■ 給水収益

基本料金の半年間の半額減額により、令和 2 年度は計画値を 0.31 億円下回っていますが、その他の年度は計画値を上回っています。前期 5 年間の合計でも、実績値が計画値を 0.96 億円、率にして 0.81% 上回る見込みで、概ね計画通りとなっています。

■ 営業費用

前期 5 年間の合計では、実績値が計画値を 2.98 億円上回っています。中でも修繕費が 1.79 億円、受水費が 1.77 億円、実績値が計画値を上回っています。

【資本的収支】

■ 企業債

当初から内部留保資金が計画額を上回っていたため、企業債発行額を抑えたことで、実績値が計画値を 7.71 億円下回っています。

■ 工事請負費

工事請負費の実績値は計画値を 2.53 億円下回っていますが、管路の更新や耐震化工事は目標値を上回って実施できています。

【4 つの基本方針】

	内 容	令和 3 年度（予算）
1. 損益黒字	損益黒字を確保します。	△0.23 億円
2. 内部留保資金	日常の資金繰りと災害時に備えて内部留保資金を 15 億円以上確保します。	25.74 億円
3. 企業債残高	令和 8 年度の「給水収益に対する企業債残高の割合」は 150% 以下とします。	120.50%
4. 料金回収率	「料金回収率」は 100% 以上を維持します。	100.56%

4 つの基本方針のうち、「1. 損益黒字」を除いた 3 つの基本方針は達成できています。令和 3 年度は、南峯配水池の解体による特別損失を計上しているため、計画値・実績ともに他の年度と比較して利益が少なくなっていますが、経営状況が悪化しているものではありません。

計画値との乖離が 0.49 億円生じているのは、計画値には盛り込まれていない鍵山浄水場の粒状活性炭入替修繕を行うことなどにより修繕費が計画値を大きく上回るためです。

実施計画における令和 5 年度までの見込み（水道事業）

上下水道部では令和 2 年度に、令和 5 年度までの実施計画を立てています。実施計画では、新水道ビジョンで試算されている水道料金の改定（令和 5 年度）を前提としておらず、あくまで参考の数値です。

新水道ビジョンの 4 つの基本方針と実施計画における令和 4 年度、5 年度の状況を比較すると次のとおりです。

【4 つの基本方針】

	内 容	令和 4 年度	令和 5 年度
1.損益黒字	損益黒字を確保します。	1.41 億円	0.38 億円
2.内部留保資金	日常の資金繰りと災害時に備えて内部留保資金を 15 億円以上確保します。	17.92 億円	17.06 億円
3.企業債残高	令和 8 年度の「給水収益に対する企業債残高の割合」は 150%以下とします。	135.20%	143.00%
4.料金回収率	「料金回収率」は 100%以上を維持します。	99.03%	95.72%

実施計画では、4 つの基本方針のうち、「4.料金回収率」を除いた 3 つの基本方針は達成する試算となっています。

今後、あらためて令和 4 年度から令和 8 年度までの「投資試算」と「財源試算」を比べ、投資に対し財源が不足するという「収支ギャップ」の有無を確認し、投資試算と財源試算との間に収支ギャップが生じた場合は、収支ギャップの解消に取り組みます。